

「すべてが神の計画」

～冒涇する者たち 御霊に生きる者へ～

マルコ 3:31~35

■ 自分の役割がわからなくなる時

マルコの福音書3章まではイエス様はユダヤ人に対して福音を伝えていました。ところが、彼らがイエス様を受け入れなかったため、ここからイエス様はたとえ話すように変わります。聖書には前のストーリーがあり、マルコの福音書では、人々の人間模様を観察していくと、神様の恵みの流れ方が変わってくるのが分かります。

マルコ3：21「イエスの身内の者たちが聞いて、イエスを連れ戻しに出てきた。『気が狂ったのだ』という人たちがいたからである。」連れ戻しに来たのは、受胎告知で美しく描かれていたマリアでした。マリアはイエス様を産むまでは立派な母親として、神様の子だと信じ、ヨセフとともにそれに従ってきました。しかし、「イエスは気が狂った」という周りの人の言葉に影響され、周りの声に流されてイエス様を連れ戻しに来てしまいました。神以外のものを見てしまうと、この時のマリアのように自分の役割が分からなくなってしまうのです。

■ イエスの母と兄弟たち

マルコ3：31「イエスの母と兄弟たちがやってきて、外に立ち、人を送ってイエスと呼んだ。」フーツ「外」という言葉は創世記24：12で初めて使われました。イエス様はマリアや兄弟が立っていたその場所を箱舟の外だと言われました。彼らにこの状態での救いはないと、この時から例えて話すようになりました。群衆が押し寄せてイエスの箱舟に入ってきたが、家族は入ってきませんでした。あなたの家族に本当に祈らなければなりません、あなたの家族が外に立ったままにならないように関わらなければなりません。イエスは十字架という方法で母マリアをイエス様の箱舟の中に導き入れようとしています。イエスはヨハネに向かって「あれがあなたの息子です」と言ったのです。神様は家に入ってこなかったマリアに対して箱舟の外に存在する自分の大切な存在を見ていたのです。

■ 「呼ぶ」カーラー昼と夜を名付けた

「送って」シャーラハ 「呼ぶ」カーラー
アダムとイブが木の実を取ったとき、人が手を伸ばした箇所です。人に遣いを送るというのは、本人がイエス様のところに行くのではなく、まるでノアの箱舟を見て、箱舟の外から、自分で善悪を判断し批判した人達の様でした。この時のマリアの行動はまさしくそうでした。家の外から遣いを送り、イエスを連れ戻そうとしたのです。マリアは、たとえ母であっても、本当の神様の愛ではない、まったく違う方法で神の計画を覆そうとしていたのです。母マリアでさえも、間違えてしまう事はあり、そんな母を前にイエスは、十字架にかかって涙を流す母マリアの前で、「子よこれがあなたの母である、母よあなたの息子である」と言ってくれたのです。神様の計画は人の間違いの中にひとつひとつ計画がされていて、その愚かさや理不尽の中にあっても神の回復が行われると言われていています。

■ 人を送ってイエスと呼んだ

人々は間違った判断によって光と闇に分けられてしまいました。だから今私たちはここにいます。誰も光が見えない夜がきます。光のある間に聞くことができないと私たちの中に暗黒がきて、ユダヤ人にはもう一度光がとぼされますが異邦人にはもう一度のチャンスはありません。ですから、今という時にうなじを強くしてはいけないと言われていています。

■ 「母」

母という言葉は、息子が離れていく母の存在が書かれています。人々が罪の中に陥っていくとその母の思いを切り裂いて新たな道を選ぶしかなかったという人々が神になったという結果の関係を言っています。しかし父なる神は、その父と子の関係を回復するために十字架にかかるのだというメッセージがあります。

■ 「兄弟」

アダムの二人の息子兄カインと弟アベルは、イエスから離され、むなしく滅びていく者という意味で描かれています。今までは家系の血によってイスラエルの民は救われると言われていましたが、それは関

係なく、みこころを行うものが救われると言われたのです。「私の母とは誰のことですか、みこころを行うものはだれでも兄弟姉妹です。」ここでイスラエルの歴史に家系の血による救いではないという、ユダヤ人であってもイエスの箱舟に入らない者は滅びるのだということを伝えています。

■ 「みこころ」「神のみこころ」ラーツォーン

神の「みこころ」とは、「思いのまま」とい意味があります。本来罪を犯した人々を憤りによって滅ぼす方法（カインとアベルの出来事）から、神様自身でその怒りを自らに引き受けるという方法に変わりました。ヤコブの息子シメオンの怒り（人間の怒り）は、カインの感情でした。人間と人間が愛し合うことができない感情に対して、神はそれを「みこころ」と呼んで、十字架に向かわせたのです。自らが十字架にかかることでその殺戮を背負いました。

ルカ9：23「だれでもわたしについて来たいと思うなら、自分を捨て、日々自分の十字架を負い、そしてわたしについて来なさい。」

ルカ9：24「自分のいのちを救おうと思う者は、それを失い、私のために自分のいのちを失う者は、それを救うのです。」

ルカ9：25「人はたとい全世界を手に入れても、自分自身を失い、損じたら何の得がありません。」

私達のみこころとは、自分の中にある十字架を背負うということです。それは自分の罪を背負うことでしょうか。違います。自分の罪は背負われました。私たちがみこころをおこなうと彼の兄弟になるのだということ、正義の上に愛がある、赦すということ。みこころを行うということは、愛して赦すということなのです。

■ コーリー・テン・ブーム

彼女は12万人の女性強制収容所でとても苦しい思いをしました。生きたまま、子どもに人体実験をされて、6万人が亡くなったという歴史があります。彼女はクリスチャンになって多くの人の前で証者としてメッセンジャーとなります。そんなある日、自分たちに残酷なことをして傷付けていた本人が自分の説教を聞いていたのです。彼女は、心が騒ぎ恨み、苦しく、悲しく、彼を赦せない自分がいました。彼はひざまずいて、クリスチャンになり罪を悔い改めて生きていると彼女に手を差し伸べてきました。彼女は赦すと思ってもそれでも赦せませんでした。しかし神様は愛せと言われました。他人を赦すことができないということは、自分が渡らなければならない橋や十字架を壊すことでした。しかし彼女は決意して赦すことは到底できないけど、手を握ったのです。その時奇跡が起き、自分の感情は伴わない中でも、自分の内側から赦します、愛します、大丈夫兄弟と言って、手を握り続けました。ヨルダン川に足をふみだす、これが神のなざる奇跡です。マリアのように外にたつて物事をみてしまうのか、それとも家の中に踏み入れる決意をするか、あなたの手を胸におけば本物が偽りか分かります。その時、あなたはその決意をどう実行するかです。すべきことは分かっている、それを行うものが私の兄弟なのだと言っています。

■ 祈り

心のうちに赦せない人と私を置きます。赦せない私、自分を責めている私を置きます。そしてその私に手を差し伸べます。赦し愛する決断をします。私が踏み出す小さな一歩によって大きな奇跡をもたらす神の計画があることを信じます。

神よ、どうか自分自身を憎んで、過去を赦せなかったことを赦してください。自分の生まれたところ、そして自分の生涯を愛せなかったことを赦してください。主よ、どうか家系やすべてのものを断ち切って、主の前に集まっていた彼らのように主の箱舟の中に、主に集められた者として、イエスキリストに接木されたものとして、今日帰ることができるよう。

(要約者:河島 弘子)

(2022年11月20日)